# 特産品協会 インフォメーション

Kagoshima Specialty Association Information

## 鹿児島国際大学 産地研修会を初開催 !!

本県の伝統的工芸品等の地場産業への理解と認識を深めていただくとともに、若い感性を生かしたモノづくりを支援する為、鹿児島国際大学の学生を対象に産地研修会を平成30年12月15日(土)に開催いたしました。

今回は、学生18名(1～4年生15名、大学院生2名、交換留学生1名)に、本場大島紬の製造工程の視察とハンカチ染め、川辺仏壇の彫金・螺鈿・蒔絵を体験していただきました。大変、興味深く話を聞き、予定時間を超過するほど熱心に製作体験に取組みながら職人との交流が行われました。

日常生活の中で伝統的工芸品に触れる機会の少ない学生からは、「地元の貴重な伝統的工芸品を間近で見て、伝統文化を感じられたことは、非常に感慨深く、良い機会だった」「想像していたよりも遥かに丁寧に作られていたことを知り、伝統工芸品の魅力を感じる事が出来ました。絶対に途絶えさせてはいけない産業だと思った」などの感想がありました。一方、「伝統工芸は地味で型にはまったイメージが強いが、もっとオープンな発想で取り組むことが大切だと感じた。興味を持つ方も増えるのではないか」などの意見もあり、若い世代への情報発信及び商品開発を工夫していく必要があると感じました。

今後も、若い世代との交流の場を設け、伝統的工芸品等へ理解と認識を深めてもらうべく事業を推進して参ります !!

ハンカチ染め体験

# 奮闘記 Struggle diary

ふるさと特産運動推進指導員

ふるさと特産運動推進指導員
食品担当
岩重　鈴美

## NHK朝ドラに商品開発の真髄を見る

NHK朝ドラの「まんぷく」の即席ラーメンの開発・販売を見ていると、これまでにお会いした多くの製造者の姿が重なります。

### <小さなヒントをものにする!>

主人公の満平は、「人の役に立つ仕事がしたい」と人生の目標を定め、美味しい、健康に良い、簡単に作れる、安い、これまでにないラーメンを作ることを目指す。

麺の練り具合、太さ、出汁などクリアすべき事項を細かく設定し、研究する。そんな中、来る日も来る日も麺の水分の抜き方を研究していた満平が、台所で揚げる天ぷらを見てひらめいた。揚げて麺の水分を抜くという方法は、画期的な商品を生み出した。寝ても覚めてもそのことが頭から離れないほど考えれば、小さなヒントもモノにできることの証です。

### <人の情報量は動いた距離に比例する>

発売すると一旦は売上を伸ばすが、すぐに類似品が現れ試練に立たされる。そんな時、自社の売上だけを考えていた満平に、妻の福子が「目指したいのは誰でも栄養のある美味しいラーメンが食べられるようにすることでしょ。」と意見し、満平は自分の目指した目標に立ち返り、模索する。大阪から東京に出てある人物からアドバイスを受けて業界の組合を設立し、自社の特許技術を開放して業界全体の質の向上を目指す。

人の情報量は、動いた距離に比例すると言われるが、異業種や他地域の人々との交わり、異文化の体験など、外に出て見聞を広げ情報を得ることは、非常に大事である。

### <ひらめきは、消費者の些細な声に>

販売が国内で頭打ちになると、海外に販路を求め、アメリカで営業を開始する。丼と箸さえあればすぐに食べられるラーメンをアメリカで紹介するが、アメリカには丼も箸もない。満平のラーメンを見たアメリカ人は、麺を紙コップに割り入れお湯をかけた。その時はこのラーメンは通用しなかったと諦めていたが、ある時、福子がアメリカでの思い出話をすると、満平の頭にカップに入れたラーメンが頭をよぎり、容器をカップに替えることをひらめいた。

商品開発のひらめきというのは、消費者の些細な行動や声に真摯に向き合うことから生み出されると気づかされる。

### <何が大事か。自分に何ができるか。>

満平は、商品開発を既成概念にとらわれない若い人を集め、紙コップに入れてお湯をかけるだけで食べられるという商品コンセプトのみを課題として与え、新たな商品づくりに取り組ませている。

このドラマから、商品開発にも常に企業や組織の目標・使命を明確にし、その達成のために「今、何が大事か」「組織に何ができるか」「自分に何ができるか」、己の立場と役割を自覚し、発揮していくことが大事だと感じさせられました。

さて、私事ではありますが、この度、職を辞することとなりました。5年10ヵ月に渡り多くのことを学ばせていただき感謝に堪えません。本県特産品の関連企業のますますのご発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。